

プレスリリース
PRESS RELEASE
2015/9/1

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

ここに棲む — 地域社会へのまなざし

Living Locally : Reconsidering Critical Regionalism

2015年10月9日(金) — 2016年1月12日(火)

14組の建築家・アーティストが地域を見つめる



藤野高志／生物建築舎《食地》2009年 photo:Taku Hata(shokokusha)



コンセプト

地域に棲まうこと——これは誰もがあたりまえのように実践していることを掘り下げて私たちの未来を考えていく展覧会です。

現代の日本は、物質的／経済的豊かさとは異なる価値観を人々が大切に考え始め、地域社会を見直す転換期を迎えています。自然との共生、脱成長型経済、高齢化の進展や家族のあり方の変容が目目の前の差し迫った問題として、個人の生き方に大きな影響を与えていると言えるでしょう。

建築デザインの領域においては、コミュニティとの関わりや協働が重視され、理念や美意識を中心に据えたエリート的で排他的とも言える建築デザインとは異なる傾向が求められ始めています。アートの領域においては、地域性や個人の違いの多様性を肯定していく表現が注目され、もっとも個人的といえる記憶や身体感覚、そして境界によって隔てられたもの同士の関係をつくりあげることに大きな関心が寄せられています。

建築批評家のケネス・フランプトンは1983年に「批判的地域主義に向けて」と題された論文において、土地の歴史／文化／自然環境を空間デザインに反映させることを提唱しました。それから30年が経ち、私たちはもう一度社会の変化を見つめ直し、私たちが日常生活において感じている地域との結びつきを建築デザインやアートなどを通して考えてみる時期が来ているのではないのでしょうか。

今ここにある問題や環境に目を向ける建築家やアーティストの実践から、私たちのこれからの棲まいを考えることを本展では目指します。

開催概要

【展覧会名称】「ここに棲む — 地域社会へのまなざし」

【会期】2015年10月9日(金)—2016年1月12日(火) 77日間

【開館時間】11時から19時まで(入館は18時30分まで)

【休館日】水曜日

(10月28日、12月23日は開館し、12月24日は休館)、年末年始(12月28日—1月4日)

【会場】アーツ前橋(群馬県前橋市千代田町5-1-16)

【観覧料】一般:600円/学生・65歳以上・団体(10名以上):400円/高校生以下:無料

※10月28日(水)は群馬県民の日のため無料

※障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名は無料

※会期中割引…以下のいずれかの条件でご来館の方は、観覧料が400円になります。

①街なかランチ割:前橋市発行の「まちなか楽食マップ」に掲載のお店で食事された当日のレシート
をお持ちの方、②トワイライト割:17時以降に来館された方

【主催】アーツ前橋

【協力】上毛新聞社、前橋工科大学

【後援】朝日新聞前橋総局、共同通信社前橋支局、産経新聞前橋支局、時事通信社前橋支局、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、FM GUNMA、まえばし CITY エフエム

【参加建築家・作家名】

アトリエ・ワン+福祉楽団 Atelier Bow-Wow + Fukushi Gakudan

乾久美子+東京藝術大学乾久美子研究室 INUI Kumiko + Tokyo University of the Arts Inui Lab
Eureka

木暮伸也 KIGURE Shinya

木村崇人 KIMURA Takahito

小林エリカ KOBAYASHI Erika

ツバメアーキテクト Tsubame Architects

照屋勇賢 TERUYA Yuken

藤野高志/生物建築舎 FUJINO Takashi/Ikimono Architects

藤本壮介 Sou Fujimoto

水谷俊博建築設計事務所 Toshihiro Mizutani Architects

三田村光土里 MITAMURA Midori

山極満博 YAMAGIWA Mitsuhiro

ライゾマティクス リサーチ Rhizomatiks Research

本展の見どころ

1. 建築とアートの二つの領域を通して、「地域に棲まう」という誰もがあたりまえにおこなっていることを掘り下げ、私たちの生活と空間／地域との結びつきについて考えます。
2. アーツ前橋では開館当初より、アートプロジェクトやシンポジウムなどの活動を通して今日の地域性について考えてきました。本展でも前橋を一つの切り口とし、他の多くの地域とも関係する課題のリサーチから制作された作品を紹介します。
3. 都市や住居のデザインに関わってきた建築家と、個人の感性をもとに作品を制作しているアーティストの双方が現代の地域社会の変化にまなざしを向けることで作品を発表します。
4. 高齢化や価値観の多様化は、家族のあり方をはじめ現在の私たちの生き方に大きな影響を与えています。シェアハウスに代表される近年の共同住宅や福祉施設など、現代社会の変化に対応した住まい方の提案を取り上げます。
5. 近年、大規模な災害や環境への負荷をもとに自然環境と私たち個人の間関係を考え直す機会が顕著にあらわれています。自然環境との共生や都市生活を見直すことから、私たちの未来の住まいについて考えます。



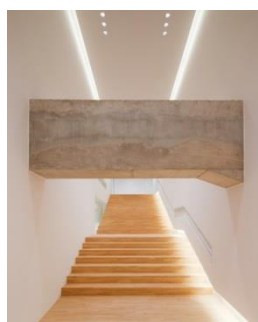
木村崇人《森ラジオ ステーション》 2014年

アーツ前橋の建築／デザインについて

アーツ前橋は、市街地中心部にある既存商業施設のコンバージョンをおこない、本格的な公共美術館として生まれ変わりました。美術館を誕生させると同時に、街のにぎわいの創出につなげることを目的としています。

建築のデザインは、次の三つを大きな考え方として計画されました。1. 施設全体を周遊する散歩道のような美術館とする。2. 既存建物の姿（記憶）を大切にし、コンバージョンの魅力を最大限引き出す。3. 展示ばかりでなく市民が積極的に利用できる魅力的な場所づくりをおこなう。

美術館内部は平面的・断面的に多様なヴォリュームの展示室が連続しながら施設全体をつなげていく構成を特徴とし、来館者がぐるりと施設をめぐる間に、展示室間に設けられたさまざまな矩形形状・寸法の開口部を介して、鑑賞する作品や、建築自身の魅力、施設内の人々の活動と多様な距離感を感じながら出会うことができます。



主な受賞

2014年

第4回環境省 省エネ照明デザインアワード 優秀事例

一般社団法人照明学会 照明普及賞

一般社団法人全日本建築技術協会 平成25年度全建賞 建築部門

DSA（一般社団法人日本空間デザイン協会）空間デザイン2014 優秀賞

公益財団法人日本デザイン振興会 GOOD DESIGN AWARD BEST 100

公益社団法人日本サインデザイン協会 第48回 SDA 賞 サインデザイン優秀賞

一般社団法人日本商環境デザイン協会 JCD デザインアワード2014 銀賞

THE ONE SHOW 2014 DESIGN FINALIST

2015年

インターナショナルフォーラムデザインハノーヴァー iF デザイン賞 2015 iF Gold Award 2015

公益社団法人 ロングライフビル推進協会 BELCA 賞 ベストリフォーム部門

一般社団法人 建築設備総合協会 環境・設備デザイン賞

出品建築家・作家紹介

アトリエ・ワン+福祉楽団 Atelier Bow-Wow + Fukushi Gakudan

アトリエ・ワン：1992年塚本由晴と貝島桃代により設立。2015年玉井洋一がパートナーとなる。住宅から公共施設まで幅広く手がけ、国内外の展覧会への参加や著作も多い。

福祉楽団：2001年在田正則と飯田大輔を中心に、千葉県栗源町（現・香取市）有志の支援を受けて社会福祉法人福祉楽団として設立。特別養護老人ホームや地域の福祉拠点の運営の他に、地域のお年寄りの「買い物バス」や、みんなで集まってご飯を食べる「ごはんの日」、将来の経済格差をなくすための無料の学習支援「寺子屋」、団地の子どもを空腹にさせない「吉川団地フードバンクプロジェクト」など地域のニーズに対応した福祉サービスの提供を行う。

乾久美子+東京藝術大学乾久美子研究室 INUI Kumiko + Tokyo University of the Arts Inui Lab

乾久美子：1969年大阪府生まれ。1992年東京藝術大学美術学部建築科卒業、1996年イエール大学大学院建築学部修了。1996～2000年青木淳建築計画事務所勤務を経て、2000年乾久美子建築設計事務所を設立。2011年より東京藝術大学美術学部建築科准教授。現代における日常のありようを探るべく設計活動や教育活動を行う。本展覧会では、乾久美子+東京藝術大学乾久美子研究室として、前橋市を含めた地域のリサーチから制作・発表を行う。

Eureka

2009年より稲垣淳哉（1980年愛知県生まれ）／佐野哲史（1980年埼玉県生まれ）／永井拓生（1980年山口県生まれ）／堀英祐（1980年佐賀県生まれ）の4名の共同主宰者、パートナーで活動を開始。建築計画・意匠・構造・環境を統合した設計を行う。主な作品は、「Dragon Court Village」（2013年）、「感泣亭」（2012年）、「Blanks」（2010年）など。主な受賞に、AR House Awards 2014, Highly Commended（The Architectural Review／英国）、日本建築家協会 JIA 東海住宅建築賞 2014 大賞などがある。

木暮伸也 KIGURE Shinya

1970年群馬県前橋市生まれ。1990年北関東造形美術専門学校高等課程修了。1993年東京芸術専門学校研究科修了後、白川昌生らが中心となり設立されたICPA現代アート研究所に入所。国内外で展示やパフォーマンスを行う。1993年結成当時の「場所・群馬」のメンバーである。主な展覧会に個展（2013年、ya-gins／前橋）、「カゼイロノハナ」（2013年、アーツ前橋）など。2013年より、Maebashi Works（前橋）を共同運営するなど幅広く活動を行う。

木村崇人 KIMURA Takahito

1971年愛知県生まれ。山梨県在住。東京藝術大学大学院博士課程修了。Ecole Supérieure d'Art et de Design de Reims（フランス）卒業。「地球と遊ぶ」をテーマに地球や自然の見えない力を知覚化、視覚化させる作品を制作し、世界に発信している。主な展覧会に個展「木村崇人と宮崎で地球と遊ぶ」（2013年、宮崎県立美術館）、個展「テーブルの上／下から 木村崇人」（2015年、アートフロントギャラリー）、「森ラジオ ステーション」（2014年、中房総国際芸術祭アートXミックス）など多数。

小林エリカ KOBAYASHI Erika

1978年東京都生まれ。東京都在住。2007-8年アジア・カルチュラル・カウンシルの招聘でアメリカ、ニューヨークに滞在。時間・記憶・放射能など目に見えないものをテーマに創作を行なう。著書『マダム・キュリーと朝食』（集英社）が第27回三島賞候補、第151回芥川賞候補に選出。主な著書に、『光の子ども1』（2013年、リトルモア）、『親愛なるキティーたちへ』（2011年、リトルモア）、作品集『忘れられないの』（2013年、青土社）など。近年の展覧会に、個展「彼女は鏡の中を覗きこむ」（2014年、GALLERY360°）、「COSMIC GIRLS展」（2014年、丸の内ハウス東京）などがある。

ツバメアーキテクトツ Tsubame Architects

2013年に山道拓人／千葉元生／西川日満里によって結成された建築家ユニット。空間の設計をする「Design」と空間が成立する前の枠組みや完成後の使い方を思考し、研究開発やまちづくりを行う「Lab」の二部門から構成される。住宅から商業施設、保育園、公共施設などの建築設計を中心に、プロダクト・家具の製作やワークショップまで、幅広い活動を行う。主な作品に、「草原学習館」（2015）、「菝窪家族プロジェクト」（2015）など。多くのプロジェクトでワークショップを行い、地域の人々を巻き込みながら設計を行う。

照屋勇賢 TERUYA Yuken

1973年沖縄県生まれ。ニューヨーク在住。1996年多摩美術大学絵画科卒業、2001年ニューヨークのスクール・オブ・ヴィジュアルアーツ修士課程修了。2005年に「Greater New York 2005」や横浜トリエンナーレ等で注目を集め、国内外で高く評価されている。主な個展に「照屋勇賢一水に浮かぶ島」展（2006年、すみだリバーサイドホール・ギャラリー）、「Free Fish: The Art of Yuken Teruya」（2007年、Asia Society, NY）、「普通の真実」（2015年、Josée Bienvenu Gallery, NY）など。また、アーツ前橋には開館準備中の2011年に滞在制作を行い、コミッションワーク《静のエリア》が設置されている。

藤野高志／生物建築舎 FUJINO Takashi／Ikimono Architects

1975年群馬県生まれ。2000年東北大学大学院博士前期課程を修了後、清水建設、はりゅうウッズスタジオ勤務を経て、2006年生物建築舎設立。2013年「天神山のアトリエ」にて、日本建築学会作品選集新人賞を受賞。2014年「菝塚の長屋」、「七つの庭のある住まい」、2015年「亀沢温泉家族風呂」が日本建築学会作品選集。建築家としての活動の他、国内外の美術館やギャラリーでの展覧会、芸術祭、講演会、絵本、動画制作など幅広く活動している。

藤本壮介 Sou Fujimoto

1971年北海道生まれ。1994年東京大学工学部建築学科卒業。2000年藤本壮介建築設計事務所設立。2015年、エコール・ポリテクニク パリ・サクレキャンパス新研究棟国際設計競技 最優秀賞。2014年、Liget Budapest House of Hungarian Music(ハンガリー) 国際設計競技 1等、Wall Street Journal Architecture Innovator 2014、モンペリエ国際設計競技最優秀賞など受賞多数。代表作に、2010年「武蔵野美術大学美術館・図書館」、2013年「Serpentine Gallery Pavilion 2013」など。

水谷俊博建築設計事務所 Toshihiro Mizutani Architects

2005年、水谷俊博(1970年神戸市生まれ)により設立。2009年からは水谷玲子(1976年神戸市生まれ)がパートナーアーキテクトとして設計に参加。代表作に「アーツ前橋」(2013年)、「Off the Wall -石神井台の家-」(2010年)などがある。住宅から公共施設までの多様な設計活動を展開し、大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ(2009年、2015年)など、国際芸術祭などへの参加や著書も多い。

三田村光土里 MITAMURA Midori

1964年愛知県生まれ。東京都在住。「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、日常の記憶や追憶のモチーフを、写真や映像、日用品など様々なメディアと組み合わせ、私小説の挿話のような空間作品を制作し国内外で発表。近年の展覧会に、「虹の彼方」(2012年、府中市美術館)、「そらいろユートピア」(2014年、十和田市現代美術館)など。2006年より、滞在型アートプロジェクト〈Art & Breakfast〉を世界各地で開催し、アートスペースで鑑賞者と朝食を共にしながら、旅の中で得られる気づきを投影させたインスタレーション制作にも取り組んでいる。

山極満博 YAMAGIWA Mitsuhiro

1969年長野県生まれ。移動と距離、スケールを軸に、絵画から写真、インスタレーションへ展開しながら“見ること”の距離間を描く。主な展覧会に、「知覚の扉 The Doors of Perception」(2010年、豊田市美術館及び喜楽亭)、「風景をつくる eine landschaft entwerfen」(2011年、ZELLWEGERPARK、スイス)、「-0+」(2015年、Gallery COEXIST-TOKYO)など。展覧会の他に、コミッションワークとして十和田市現代美術館やアーツ前橋に作品が設置されている。

ライゾマティクス リサーチ Rhizomatiks Research

テクノロジーの関係について研究し、アーティスト、研究者、デザイナー、ダンサー、振付家、音楽家、エンジニアなど様々なクリエイターとのコラボレーションワークを通じて、世の中にアート、エンターテインメントプロジェクトを発表していく組織として2015年にライゾマティクス内で結成。Perfumeの演出技術サポート、ELEVENPLAYとのコラボレーションの他、国内外のメディアアーティスト、ミュージシャンへの技術協力を行っている。

関連イベント

◎トークセッション「地域に棲む—批判的地域主義の再考」

建築家とアーティストが「地域に住むこと」をテーマに語ります。

日時：10月17日(土) 14時から

会場：シネマまえばし（アーツ前橋と同じ建物の3階）

スピーカー：渡辺真理、乾久美子、小林エリカ、藤野高志

参加費：無料／定員：先着100名／※要申込

◎「新しい家族」のための住まいを考えるワークショップ

建築家と一緒にこれからの共同住宅（シェアハウス）を考えよう。

日時：10月24日(土) 14時から17時

講師：藤原徹平、ツバメアーキテクト

会場：アーツ前橋 スタジオ

参加費：無料／定員：先着15名／対象：高校生以上／※要申込

◎地域主義的！近現代ケンテックツアー

今も残る、市内の近現代の名建築を解説と共に見て巡ります。

日時：10月31日(土) 13時から17時

講師：星和彦、石田敏明

集合場所：アーツ前橋

参加費：無料／定員：先着50名／※要申込

◎まえばし・バブル建築ツアー

近隣のバブル期に建てられた迷(?)建築や看板などを地元の建築家と巡ります。

日時：11月3日(火・祝) 10時から11時30分

講師：橋本薫

集合場所：アーツ前橋

参加費：無料／定員：先着20名／※要申込

◎建築模型制作ワークショップ

建築家が作った前橋の名建築の模型を使って、自分の夢の部屋を作ろう！

日時：11月23日(月・祝) 13時から16時

講師：橋本薫、藤野高志

会場：アーツ前橋 スタジオ

参加費：無料／定員：先着20名／対象：小学生以上／※要申込

◎アーツ前橋の設計者と巡る美術館ツアー

アーツ前橋の設計を行った建築家による解説ツアー。

日時：11月28日(土) 14時から

講師：水谷俊博

会場：アーツ前橋 ギャラリー

参加費：不要(要鑑賞券)／申込不要

◎こどもアート探検

日時：11月8日(日)、12月12日(土) 14時から

会場：アーツ前橋 ギャラリー

参加費：不要(要鑑賞券)／対象：中学生以下とその保護者／※要申込

◎担当学芸員によるギャラリーツアー

日時：11月14日(土)、12月19日(土) 14時から

会場：アーツ前橋 ギャラリー

参加費：不要(要鑑賞券)／申込不要

◆入館無料日：2015年10月28日(水) 群馬県民の日

※[要申込]はお電話にてお申し込みください。 アーツ前橋 TEL:027-230-1144

プレスレビュー

2015年10月8日(木) 14時会場／19時閉場
プレス向け作品解説会 14時30分～15時30分
*一部の建築家・アーティストが立ち会います。

展覧会カタログ

本展覧会開催にあわせ図録を出版します。

展覧会図録

『ここに棲む - 地域社会へのまなざし』

発行：彰国社

定価：未定

仕様：B5 変判 140 ページ (予定)

デザイン：氏デザイン

10月上旬、彰国社より全国発売予定

関連書籍

群馬県内の近代から現代の建築を紹介した書籍。

『ぐんま建築ガイド』

発行：上毛新聞社

定価：1500円＋税 (予定)

仕様：A5判、96ページ、並製本、オールカラー

監修：前橋工科大学

発行日：2015年10月4日 (予定)

貸出図版



1



2



3



4



5



6

1. Eureka 《Dragon Court Village》 2013年 Photo: Ookura Hideki / Kurome Photo Studio
2. 木村崇人 《森ラジオ ステーション》 2014年
3. ツバメアーキテクツ 《旬八青果店 二号店》 2013年 ©ツバメアーキテクツ
4. 小林エリカ 《光の子ども》 2013年 ©リトルモア、ギャラリー360°、360° グラフィックス
5. 藤野高志 / 生物建築舎 《食地》 2009年 photo:Taku Hata (shokokusha)
6. 三田村光土里 《アート&ブレイクファスト・ベルリン》 2010年

記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期を表記してください。
- ・写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。

アーツ前橋企画展「ここに棲む ― 地域社会へのまなざし」 広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

- ご希望の画像の番号に○を付けてください。画像（JPEG）をメールにてお送りいたします。
- * 本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供いたします。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。
 - * 掲載にあたっては、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	画像キャプション
1	Eureka 《Dragon Court Village》2013年 Photo: Ookura Hideki / Kurome Photo Studio
2	木村崇人 《森ラジオ ステーション》2014年
3	ツバメアーキテクト 《旬八青果店 二号店》2013年 ©ツバメアーキテクト
4	小林エリカ 《光の子ども》2013年 ©リトルモア、ギャラリー360°、360° グラフィックス
5	藤野高志 / 生物建築舎 《食地》2009年 photo:Taku Hata (shokokusha)
6	三田村光土里 《アート&ブレイクファスト・ベルリン》 2010年

読者プレゼント用招待券（5組 10名様）

希望します 希望しません

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください

掲載誌：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地：	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	

お問い合わせ

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当 山田（広報担当）、五十嵐（学芸担当）

〒371 - 0022 群馬県前橋市千代田町 5 - 1 - 16

TEL : 027-230-1144 FAX : 027-232-2016 URL : <http://www.artsmaebashi.jp>

E-MAIL : artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

●公共機関

JR 前橋駅から徒歩約 10 分

上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 5 分

●自動車

関越自動車道 前橋 I.C から車で約 15 分



※地図内Pマークの駐車場のご利用に関しては、駐車券に割引処理いたします。